

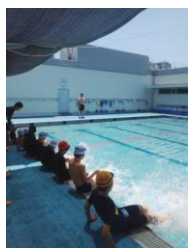
今後、求められる水泳指導のあり方について

校長 加藤 憲司

6月2日(月)から2泊3日、5年生の那須甲子自然教室を無事に実施することができました。これまで利用していた鋸南自然の家が大規模改修工事で3年間休館することに伴い、国立那須甲子青少年自然の家での初めての実施でしたが、標高 950 メートルの環境の中、ハイキングや、板材を焼き上げてたわして磨く「焼き板」など多くの自然体験を行うことができました。次年度も那須甲子で5年生の自然教室を行う予定です。



これまで全国の多くの学校のプールにおいて、夏になれば水泳授業を行うのが当たり前でしたが、学校での水泳授業を全国的に見直すニュースを見ることが増えました。その背景として、まずは暑すぎることが挙げられます。以前は、水温が低いからプールの授業が中止になることはよくありましたが、現在は、水温が高く、暑すぎて水泳授業が中止になるケースが増えています。また、熱中症警戒アラートが発表されると、原則屋外での運動等は中止となりますが、環境省の「[熱中症](#)



[予防情報サイト](#)」によると、昨年度の東京都は、6月29日に発表された後、9月20日まで37回、熱中症警戒アラートが発表されており、今年も厳しい状況が予想されています。

足立小では6月16日(月)にプール開きをしましたが、今年は「ほごしゃ563」の皆様により日除け(写真参照)を設置していただいたことで、北側のプールサイドの温度が下がり、熱中症対策に役立っています。ありがとうございました。



また、近年、水泳授業をスポーツクラブ等に外部委託する取組も全国的に見られます。お隣の葛飾区では、区のスポーツセンターや民間の屋内温水プールを活用した水泳授業へと移行していく方針を示しています。プールの清掃や水質の管理など教員の負担を軽減する「働き方改革」や、天候に左右されず計画的に水泳指導ができること、専門のインストラクターによる指導が受けられる等のメリットを期待しての取組です。

そのような水泳授業ですが、もともとスポーツではなく、昭和30年に発生した沈没事故で、修学旅行中の小中学生を含む多くの人々が泳げなかったことにより命が失われ、その教訓として、水泳の重要性が認識されて、全国的に水泳の授業が普及していったといわれています。水難事故の多くは、水着ではなく衣服を着用した状態で発生するため、泳力向上だけではなく、本校でも「着衣泳」を毎年5年生で実施しています。

今後、外部委託等は学校独自で実施することはできませんが、水泳授業の開始・終了時期の前倒しや、夏季水泳指導の実施のあり方等について、水泳授業の意義を踏まえ、今後検討していきます。

学校公開週間(6月9日～14日)が終わりました

6月9日から14日まで実施した学校公開には、保護者、地域の方、のべ903人にご来校いただきました。特に、14日(土)には、461人にご来校いただき、子供たちの学習の様子を参観していただきました。各学年、セーフティ教室や、土曜日の午後は「足立小フェス!」もあり、盛りだくさんの1週間となりました。

なお、参観者の内訳は以下のとおりです。次の学校公開は、10月18日(土)～24日(金)の予定です。たくさんの方の保護者・地域の皆様のご来校をお待ちしています。

	9日(月)	11日(水)	12日(木)	13日(金)	14日(土)	合計
参観者数	113人	84人	124人	121人	461人	903人